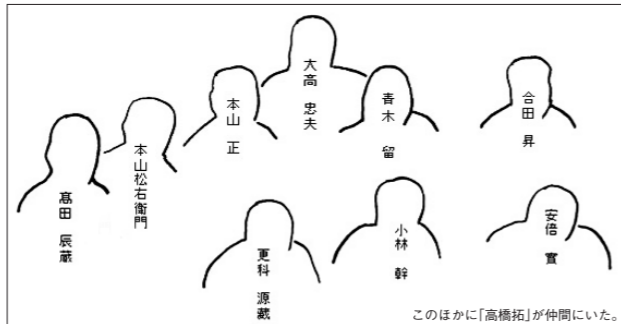


更科源藏(さらしなげんぞう)
 ●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を続けた。
 ▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



小林俊夫氏所蔵アルバムから



『竹馬会(ちくまかい)』

更科には、仲間を集めてまとめるといふ天性の力があります。「竹馬会」という集まりも、その仲間づくりの一つでした。「竹馬会」は、1934(昭和9)年、弟子屈尋常小学校の開校30周年のとき、卒業生が集って記念行事の一つに演劇を公演しているのですが、そのときに集った人たちの中から組織されました。会の目的は「竹馬の友が集って、自分等を育てて呉れた郷土を愛そう」で、1934年12月に国立公園に指定された弟子屈の街をきれいにしようとする清掃活動や、釧路の映画館の協力で映画会を催したりする文化活動などでした。この仲間も、1937(昭和12)年に起きた日支事変から暗い影が日本中に広がり、1938(昭和13)年には自然消滅の状態で活動をやめています。

更科は、仲間たちと語り合う時間を大切にします。写真は、1936(昭和11)年1月3日、川湯の御園ホテル、竹馬会の仲間たちとの新年会のスナップ写真です。前の年の1935(昭和10)年は、更科が敬愛する父・治郎が牛に突かれて急死し、妻はなゑが初めて吐血している、悲しい出来事や心配な出来事

があつた年でした。そんな中でも唯一気持ち安らぐのは、仲間たちとの他愛のない語り合いのときだけだったので。

この仲間たちとの時間を過ごした後、街で印刷屋をしながら本州の仲間と文学活動していた更科のところへ、本州で起きた無政府主義者団体の事件の容疑者が逃げ込んでいないかとの疑いで、特高警察の取り調べを受けることになりましたが、そのような事実はなかったのです。そのようなことがあつて8月には、10月に北海道で行われる陸軍特別大演習の統括に天皇が来道することになっていて、これに先駆けて警護のため、無政府主義者に関係する者を検挙する噂が広がります。更科は、1月に特高に事実無根で検挙されているので、騒ぎをやり過ぎすため東京へ出かけています。

騒ぎが治まった秋、1934年からやっていた印刷屋を売り払い、そのお金で牛を買い、セタイベツで酪農を始めています。

※1 日支事変：日中戦争
 ※2 セタイベツ：「セタイ(オオカミ、犬イ(飲む・食べる)ベツ川)」という、仁多川と秋田川の間にあつた川と、その周辺。

料金受取人私郵便
 釧路支店 認
 承
 69
 差出有効期間
 平成23年3月
 31日まで
 (切手不要)

町民課町民相談係行

弟子屈町役場

0883292

折り線

十二二巻